2007 年

日本都市計画学会
学会賞受賞者ならびに授賞理由書

（社）日本都市計画学会

日本都市計画学会

2007 年　学会賞受賞者ならびに授賞理由書

1）　受賞者一覧 p.1

2）　選考経過および各賞の対象内容 p.2

3）　授賞理由

（1）　石川賞 p.3

（2）　論文賞 p.5

（3）　論文奨励賞 ..... p.6.

日本都市計画学会　学会賞受賞者

（各賞五十音順・敬称略）

石川賞

風景絵画を基にした「絵になる景観」研究に関する一連の著作

九州大学名誉教授　　萩島　哲

神戸市における旧居留地連絡協議会のまちづくり活動

旧居留地連絡協議会
会長　　野澤　太一郎

論文賞

確率論的都市モデルによる土地利用形態形成理論

東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻教授　　青木　義次

論文奨励賞

スペインの歴史的市街地における保全再生戦略に関する研究
−バルセロナ旧市街における再開発過程の分析を中心に−

政策研究大学院大学文化政策プログラム　　阿部　大輔

交通網のグラフ構造と地点間相互作用に基づく都市内アクティビティ分布の理論

慶應義塾大学理工学部管理工学科助教　　鵜飼　孝盛

地域社会との相互関係性を考慮した歴史的環境財の保全に関する計量的研究

三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング（株）政策研究事業本部
研究開発第二部　　大庭　哲治

アルベルティ『建築論』と『フェリーペ２世の勅令』における都市計画理念
−スペイン・ルネサンス期における都市計画規範の比較−

摂南大学工学部建築学科准教授　　加嶋　章博

大都市都心部における都市機能の更新誘導手法に関する研究
−東京都中央区を事例として−

（株）UG 都市建築都市カンパニーチーフ　　川崎　興太

都市美運動に関する研究

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻助教　　中島　直人

近接性からみたネットワーク形態解析と輸送システム最適化に関する数理的研究

（独）海上技術安全研究所物流研究センター　　渡部　大輔

大都市都心部におけるエリアマネジメントに関する研究
−地域主体による地域の管理運営の実態とその組織及び推進システムを中心に−

韓国土地公社国土都市研究院都市・地域研究所　　李　三洙

2007年　日本都市計画学会賞　選考経過

2007年（2006年度対象）学会賞は、会員が推薦した石川賞候補2件、論文賞候補1件、論文奨励賞候補14件、計画設計賞候補1件、計18件が審査の対象となった。

表彰委員会（学会賞選考分科会・委員全19名）は各々の候補の業績について複数の担当審査委員が各々独立に査読および調査を実施し、各委員から提出された書面での評価にもとづき、分科会で慎重に検討の結果、受賞候補を選定した。

特に評価の分かれた案件については委員会席上でその結果を照合、討論、協議し、分科会の最終審査結果とした。さらに分科会の審査結果を理事会に諮って、石川賞2件、論文賞1件、論文奨励賞8件の受賞が決定した。

各賞の対象内容

石川賞

都市計画に関する独創的または啓発的な業績により、都市計画の進歩、発展に顕著な貢献をした個人または団体を対象とする。

論文賞

都市計画の進歩、発展に顕著な貢献を認められる研究論文を近年発表した会員を対象とする。

論文奨励賞

都市計画に関する将来性・発展性が顕著な研究論文を最近発表した会員を対象とする。

石川賞	
受賞者	萩島　哲
作品名	風景絵画を基にした「絵になる景観」研究に関する一連の著作

受賞者の萩島氏は、風景絵画に描かれた「絵になる景観」の読み方について、『バロック期の都市風景画を読む～ベロットが描いたドレスデン、ピルナ、ケーニヒシュタインの景観』（萩島哲著 2006，九州大学出版会）、『名所空間の発見　地方の名所図録会を読む』（萩島哲編著、2005、同）、『広重の浮世絵　風景画と景観デザイン』（萩島哲・坂井猛・鵤心治、2004、同）という一連の 3 編の著作を上梓し、都市景観設計に参考とする視点をとりだした。その都市景観形成に寄与しているその業績は顕著なものがある。

風景画に描かれた絵の視点場を探索し、広重の浮世絵風景画では構図の水視率や流軸角、樹木の種類や高さなど構図の解析から絵になる景観の特徴を示している。また名所図録図絵の解析では神社について地形の特徴を調べ、現地調査と 3 次元 CG を駆使した眺望景観の類型化を示している。さらにドイツのドレスデン等バロック期のベロットによる都市風景画の視点場を訪ねて、都市風景の「絵になる景観」を広場、オープンスペース等との関連で分析し、構図についてのバロック的な特徴をも実景と比べながら解き明かしている。

これまでも絵画の画を実景に比べることは行われていても、このように「絵になる風景」をその絵画と実景写真、そして視点場の位置を示す地図などの情報で整理して、3 冊の異なる対象を共通した方法論で「絵になる風景」の特質を明らかにしたことは都市景観設計の発展にも寄与する大きな功績といえる。なお、3 編のうち 2 編が共著であり、他の著作者や研究室で指導にあたった学生の研究成果を活用しているので、いわばそういう共同研究の成果に基づいて、研究の統括者として表彰するものである。今後はこの一連の研究で得た成果を実際の我が国の景観設計の実務レベルに活用していく成果を後進の指導とともに期待したい。

石川賞	
受賞者	旧居留地連絡協議会
作品名	神戸市における旧居留地連絡協議会のまちづくり活動

協議会は、神戸都心に位置する旧居留地において、前身である「国際地区共助会」の時代も含め、我が国エリアマネージメントのトップランナーとして長きにわたり着実に活動を続けている。

特に、阪神淡路大震災以降の継続的活動による一連の成果は、協議会構成メンバーの大半の企業が深刻な被害を受けるという困難な状況下にもかかわらず、歴史的建築物の凍結保存的アプローチを乗り越えたアーバンデザインの新しい方向性を打ち出すことに成功したと考える。

また、活動のあり方についても、長期の持続的活動が、特定企業の強いリーダーシップの下で成立しているのではなく、構成メンバーの対等な関係で支えられている活動である点に特徴があり、後続のエリアマネージメント主体とっての望ましい参考例として評価に値する。

よってその功績をたたえ、ここに石川賞を授与する。

論文賞	
受賞者	青木　義次
作品名	確率論的都市モデルによる土地利用形態形成理論

『確率的都市モデルによる土地利用形態形成理論』は、都市空間をセルに分割し、セルが利己的に選ぶ土地利用が相互連関しつつ確率的に変化してゆく様を記述する数理モデルを扱った、一連の研究の集大成である。本研究は、(1)巧妙なる定式化により土地利用の確率過程を分析する技術を提供し、(2)統計物理学の概念を通じて都市の様態を分析する新規性を有し、(3)空間相関の実証分析を通じて著者の確率論的都市モデルの現実への適用可能性を傍証することに成功している。

セル毎の土地利用選択を個人の効用に基づく非集計ロジットモデルと同型のモデルで与え、土地利用状態の変遷を 1 種のマルコフモデルで記述する。著者は、その確率的挙動と均衡分布の存在定理を E 関数(個人の相対的効用の総和に負符号を付したものであり物理学の位置エネルギーに相当する)という概念の導入によって明示した。さらに E 関数の吟味を統計物理学の平均場理論に立脚して進め、確率的均衡解に関する存在定理の証明と、確率的シミュレーションを通じて、都市計画上有用と思われる知見を提供している。ゾーニングが自然形成され得ることの発見、土地利用規制が秩序形成に果たす役割の解明、災害等による土地利用の外乱が収束する可能性の吟味、等がそれに当たる。

以上の点に鑑み、本研究の学術的貢献は論文賞に十分に価するものと判断する。

論文奨励賞

受賞者	阿部　大輔
作品名	スペインの歴史的市街地における保全再生戦略に関する研究 −バルセロナ旧市街における再開発過程の分析を中心に−

本研究は、スペインの歴史的市街地の保全再生という主題をめぐり、バルセロナの旧市街の再生プロジェクトの事例分析を中心に据え、関連制度の歴史的な展開にも言及している。歴史的な市街地の再生整備は都市計画のひとつの大きな課題であるのみでなく、近年、ヨーロッパの国々で実際に多様な展開を見せている現実に照らして、スペインにおけるその実態がわが国の都市計画研究で明らかにされたことは有意義である。

現地の大学に留学をし、近年 25 年のプロジェクト主導による都市再生を軸に考察を加えた業績は、歴史的研究と都市戦略を互いに不可分のものとして、リンクさせたという点で、高く評価できる。

よって本研究は、論文奨励賞にふさわしいと考えられる。

受賞者	鵜飼　孝盛
作品名	交通網のグラフ構造と地点間相互作用に基づく都市内アクティビティ分布の理論

本研究は、都市内の各地点の商業施設や事業所などのアクティビティが、交通網を介して相互に影響を及ぼしあって生み出す「地理的な重要度の分布」について論じたものである。

既往の研究でも重要度（地利値）についての研究は存在するが、本論文の特徴は、(1)ある地点の重要度は、交通網を介して他の地点からそれらの地点の重要度に応じた影響を受け決定し、(2)その時点自身も、交通網を介して、その重要度に応じた影響を周囲に与える、という“再帰的”構造の下で、重要度の大きさが決定しているというプロセスに着目し、その相互連関の下でのアクティビティの総和を最大にする解として重要度が得られるという理論的背景を明らかにしたことにある。また、平面への拡張を図り、現実の都市にモデルを適用した点で、学術的貢献度が高いと評価できる。

論文も読みやすく、論旨の展開を十分に練って執筆されたものであると評価できる。論文奨励賞としてふさわしい成果である。

受賞者	大庭　哲治
作品名	地域社会との相互関係性を考慮した歴史的環境財の保全に関する計量的研究

本研究は、京町家を対象として、歴史的環境財の保全に関する経済的価値及び保全可能性についての評価を行ったものであり、歴史的価値の定量的評価という困難な課題に対して、正攻法で取り組んだきわめて真摯な研究として評価される。とりわけ、歴史的環境財の存在が近隣に与える外部効果の計測手法や、地域互助による歴史的環境財の保全可能性の評価手法など、視点のユニークさ、および、提案している手法の堅実さが際立っている。

京町家そのものの建築史的検討などもしっかりと行っており、たんなる定量的評価研究を超える価値を有してもいる。

歴史的環境財といえども、公共政策の一環として取り組まれる場合には、その有効性や効率性が問われる時代が来ていることから、こうした論文の存在価値は高い。

論文の完成度も非常に高く、論文奨励賞の資格を十二分に備えた優れた論文であると判断される。

受賞者	加嶋　章博
作品名	アルベルティ『建築論』と『フェリーペ2世の勅令』における都市計画理念 –スペイン・ルネサンス期における都市計画規範の比較–

本論文は、16 世紀スペインの植民都市の計画規範を表した「フェリーペ２世の勅令」が、15 世紀イタリア・ルネサンスのアルベルティの建築・都市論、およびその源流にあたる古代のウィートルウィウスの建築・都市論の影響を受けつつも、植民都市の計画という現実的課題に直面して、先行する論とは異なる新たな規範をも生み出し、そしてさらに、後世の計画規範に影響を与えたことを立証しようとする研究の一部を成す。16 世紀の勅令資料を直接参照した上での分析は、歴史的研究としての一つの要件を満たしている。また、その勅令が、先行する時代の論とは異なり、都市の拡張への対応を意識した内容を含んでいるという指摘は、後世の計画論との関係を示唆するものとしても興味深い。本論文を含む 3 編の論文は、それぞれ、16 世紀の勅令とアルベルティ、ウィートルウィウスおよび 17 世紀の植民地法「カルロス２世法」との関係を論じており、それらを全体としてみると、計画論の歴史的な展開が部分的に浮かび上がってくる。その点を評価すると同時に、計画論の歴史的展開のさらなる追究がなされることを期待して、論文奨励賞を授与する。

受賞者	川崎　興太
作品名	大都市都心部における都市機能の更新誘導手法に関する研究 −東京都中央区を事例として−

本研究は、東京都中央区を対象とする都市計画学会論文6（大会論文4、一般投稿論文2）と建築学会研究懇談会資料1からなる一連の研究成果である。

東京都中央区を対象として場を限定しながら、施策の展開、都心型居住、商業・業務地の3部構成として問題を扱っている。地区を単位とする都市機能の更新・誘導の手法を扱い、中央区の都市計画手法を体系的に捉えている。地区レベルで見たときに、建築や街づくりの動向・方向性に対して、都市計画上の手法の変遷が直接影響を与えていることがよく示されている。

個々の論文の完成度は高く、分析も緻密でありながら、計画論も展開している。提出された論文を通読することで、大都市中心部－中央区での施策展開の実情と問題点が俯瞰できる好研究であり、論文奨励賞にふさわしいものと評価される。

受賞者	中島　直人
作品名	都市美運動に関する研究

本論文は、わが国の都市計画黎明期に起こった都市美運動の生成、展開、終焉に至る全体像を、幅広く資料、文献の探索を行い、これらを十分に読み込んだ上で、解明した労作である。以下の理由により本論文はすぐれた研究として論文奨励賞に値する。

1.都市美運動を国際的な都市計画動向の文脈の下に位置づけ、整理した点である。すなわち、欧米におけるシビックアートを言われる都市づくりの思想、手法を広範な史料、資料探索によって整理し、日本への影響、伝播を整理した点。

2.都市美運動ないしは都市美協会の活動を東京に限定せず、全国的な視野で位置づけ整理した。また、都市美協会に限定されず、他の関連機関の活動との関連、異同も整理した点。

3.石原憲治、橡内吉胤、石川栄耀の 3 人の都市美運動を担った人物に焦点をあて、其の思想、運動を全体的に解明した点。特に、殆ど忘却されていた橡内吉胤という民間都市計画研究家の全体像を明らかにした点、著名な都市計画家、石川栄耀の都市美運動家の側面を照射した点は貴重な貢献である。

以上、未開拓の都市計画史分野に取り組み、新たな資料の発掘も行い、さらに都市計画史研究を現代の都市計画課題と結びつける構想力など、著者の能力は卓越しており、論文奨励賞に十分に値する。

受賞者	渡部　大輔
作品名	近接性からみたネットワークの形態解析と輸送システム最適化に関する研究

本研究は、都市内交通網の近接性の形態解析をおこなっており、内容はネットワーク解析の幾何確率的な構成アルゴリズムの体系化と、階層構造を持つ施設の数を輸送コスト最小化のもとで決定方法の解明からなっている。

論文前半部分では、ネットワークの交叉点が所与であるとのもとで、交叉点を結ぶネットワーク構成アルゴリズムに基づく数理的な特徴を的確に抽出するとともに、従来再現が困難であった格子状機軸パターンの再現に相対近傍グラフが有効であることや、ほとんどの区画街路はドローネ網と約97%の本数が一致することなどを突き止めている。

論文後半部分では、階層構造を有する輸送システムとして国内外の小包輸送を事例としておこなっている実証分析も的確である。

以上のように、都市空間の形態解析と現実の輸送を結びつけた点でも高く評価でき、また理論と実証のバランスという意味でも優れている。

よって本研究は、論文奨励賞のふさわしい内容を十分に有していると考えられる。

受賞者	李　三洙
作品名	大都市都心部におけるエリアマネジメントに関する研究 −地域主体による地域の管理運営の実態とその組織及び推進システムを中心に−

この研究は都市づくりの開発に続く地区全体の管理運営の視点から見た意欲的研究であり、その実態の詳細な分析、管理運営の組織及びシステムのあり方に論及し、魅力ある地区の再生・活性化に有効な方法論として展開している。

特に、東京等の大都市の都心部の一定地区における開発事業に着目して、開発に連続する管理運営面に焦点を当て、詳細に分析し、類型化し、推進組織のあり方と推進システムに大きな研究成果をもたらしている。

研究の一部はすでに出版物として刊行し、活用されているが、その執筆にも大きな役割を発揮している。

従来の研究内容をより高めている点と都市づくりのマネジメントの分野確立に大きく貢献した基礎的研究として論文奨励賞に値すると判断される。